



「あいさつをしている」とは

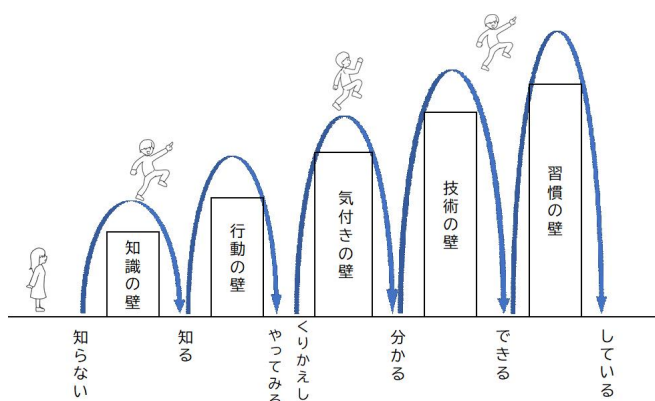
国分北小学校 川野 浩明

国分北小学校では、児童総務委員会の活動で、子供たちによる朝のあいさつ運動をしています。また、国分北小学校周辺で、毎朝立ってあいさつや、横断補助をしてくださっている方々へ元気よくあいさつをしています。あいさつが気持ちのよい学校を目指して取り組んでいます。



さて、あいさつをすることは、よいことだというのは、みんな「知っている」ことです。それを自分の習慣として気持ちのよいあいさつができているかという域まで達するには、実は、いくつかの段階があります。

あいさつをしなさいと言われてしている状況では、「行動の壁」は超えているけど、あいさつすると何がよいのかに気付いていない段階です。あいさつを繰り返してやってみて、あいさつのよさに気付いた時に、次の「分かる」の段階に達します。この「気付きの壁」を超えられるかどうかで、あいさつ名人になれるかどうかが決まります。



「分かる」に達したら、次はどうすれば、より相手に気持ちよくあいさつができるかの「技術の壁」がやってきます。相手の目を見てやるや、語先後礼、声の大きさやトーンなど、自分なりに考えて行動できるようになった時に、「あいさつができる」となります。

そして、それを「いつでも誰にでもできる」ようになると「習慣の壁」を超えられ、「あいさつをしている」という名人の域に達します。これは、勉強やスポーツにも通じます。

朝、国分北小前交差点を通る子供で、地域の方に立ち止まって、相手に体を向けて、しっかり頭を下げて「おはようございます。」という6年生の子供がいます。いつもすごい子供だなと感心しています。そんなすばらしい6年生をお手本に、国分北小は、あいさつ名人を目指してがんばっています。

あいさつは、社会に出たら必ず必要になります。小学校でしっかりとできるようにしていきたいと思いますので、地域の方々も、声をかけてくださるとありがたいです。